

日本語版ソーシャルメディア依存傾向尺度 (BSMAS-J) の信頼性と妥当性の検討

○LIAN Zhixian, ZHANG Mengting

Keywords : ソーシャルメディア依存、BSMAS、国際比較

1 目的

本研究は、日本語版ソーシャルメディア依存傾向尺度を作成する。近年、ソーシャルメディアの利用は世界的に普及し、人々の生活に深く浸透している。その一方で、若者を中心に過度な利用による問題、すなわちソーシャルメディア依存が深刻な社会課題として認識されるようになった (Bottaro et al., 2025; Rouleau et al., 2023)。ソーシャルメディア依存傾向を測定する代表的な国際標準尺度として、ベルゲン・ソーシャルメディア依存尺度 (Bergen Social Media Addiction Scale; 以下 BSMAS) が挙げられる (Andreassen et al., 2016)。BSMAS はこれまでに多くの言語に翻訳され、その有効性が多様な文化圏で確認されているが、標準化された日本語版は未だ作成されていない。そこで本研究では、日本語版 BSMAS を作成し、その信頼性と妥当性を検証することを目的とする。

2 方法

ウェブ調査会社を介して 18 歳から 24 歳までの 363 名を対象に調査を実施した。「学生」を回答しなかった対象者を除いた、最後 299 名となった (年齢: $M=20.44$, $SD=1.49$)。原版尺度の開発研究を参考にし、参加者には、日本語版 BSMAS、インターネット依存尺度 (以下 IAT)、日本語版 BIS/BAS、TIPI-J (BigFive 性格測定尺度) の順で回答を求めた。

3 結果

信頼性の結果として、日本語版 BSMAS の Cronbach の α 係数は .90 で十分な値を有しており、級内相関係数が $ICC = .65$ ($p < .001$, $95\%CI[0.57, 0.71]$) であった。したがって、日本語版 BSMAS は十分な信頼性を持つと考えられる。妥当性の結果として、BSMAS に対して、性別と BIS のみ有意であった。具体的には、性別 ($b = -1.76$, $95\%CI[-2.95, -0.57]$, $p < .01$) が負の影響を与えたが、BIS ($b = 0.35$, $95\%CI[0.16, 0.53]$, $p < .01$) が正の影響を与えると示された。これは、男性と比べ、女性の方が BSMAS 得点は低くなる。IAT に対して、BIS ($b = 2.12$, $95\%CI[1.66, 2.58]$, $p < .01$) と BASD ($b = 1.35$, $95\%CI[0.41, 2.29]$, $p < .01$) が正の影響を与えたが、BASRR ($b = -0.54$, $95\%CI[-1.00, -0.09]$, $p < .01$) が負の影響を与えることが示された。ここから、ソーシャルメディア依存傾向とインターネット依存傾向は異なる要因で影響すると示唆された。

4 結論

本研究は、日本語版 BSMAS 尺度を作成し、尺度の信頼性と妥当性を確認した。結果として、日本語版 BSMAS は高い信頼性と十分な妥当性を示した。今後、日本語版 BSMAS 尺度は日本国内におけるソーシャルメディア依存問題への理解と対策を前進させるだけでなく、今後の国際比較研究を可能にすることで、この問題に対するより普遍的な知見の蓄積にも貢献することが期待される。

【主要参考文献】

Andreassen, C. S., Billieux, J., Griffiths, M. D., Kuss, D. J., Demetrovics, Z., Mazzoni, E., & Pallesen, S. (2016). The relationship between addictive use of social media and video games and symptoms of psychiatric disorders: A large-scale cross-sectional study. *Psychology of addictive behaviors*, 30(2), 252-262.